

柴北川プロジェクト通信 19号

平成23年10月22日(土)

1. 2度目の稲刈り・収穫祭

雨の中での田植えをした6月19日(日)から約4ヶ月経過した10月22日(土)に、「柴北川を愛する会」と合同での稲刈り・収穫祭を行いました。天候が大変心配されましたが、結果的には作業中は雨にも合わず、稲刈り・かけ干し作業を行い、いつもの旧長谷小学校の体育館へ移動後、昼食、ミニコンサート、獅子舞等を楽しませて頂きました。

稲刈り・収穫祭は、我々共助研としては2回目になりますが、新会員の中川さんのお子さんや波多野会員のお子さんも参加され、終止、にぎやかで大変楽しい一日となりました。

2. 稲刈り・かけ干し作業

カマを使った手刈りでの稲刈りは、長谷地区でも最近は何だか実施しないということでした。田植えの時もそうでしたが、一見狭く見える田んぼも、作業のために中へ入ると意外と広く感じるものです。しかし、地元の方々や我々大勢で作業をすれば、思った以上の速さで稲刈りは進んで行きました。お子さん二人を含む中川さんご家族が、我々とは別行動で予定より遅れられていましたので、到着前に稲が無くなってしまおうのではとヒヤヒヤし、渡邊さんへお願いしてペースを緩めてもらいました。



写真一 稲刈り作業全景



写真二 中川さん親子も参戦

刈った稲は、ハザと呼ばれる竹で作った干し竿に掛けて行きますが、その前に刈った稲束を結束する必要があります。その結束には稲わらを使いますが、振って束に押し込むのには要領が要ります。前回よりは少し慣れてきました。ほんの少しだけ緩めに振っておいて最後に押し込むと楽です。



写真三 かけ干し作業中



写真四 作業終了

3. 豪華ランチバイキングと物産販売

柴北川プロジェクトの大きな楽しみの一つは、いつのまにか「柴北川レディーズによる地元料理」ということが定着していますが、この日も、おかずの種類之多さとおいしさには改めて感激しました。行った方でないといこの素晴らしさは分かって頂けないとは思いますが、どんな高級ホテルのバイキングでも決して味わえないレベルと思います。以下のとおり、写真だけでもお楽しみください。



写真一五 豪華ランチバイキング



写真一六 豪華ランチバイキング・その2

また、いつものとおり、物産販売もして頂きました。ギンナン等の安さには驚きです。また、カボスジュースの大きなビン詰めもありました。これらはいつか、後に述べる“ネット通販”で誰でも買えるようになるかも知れません。

4. ミニコンサート

豪華ランチバイキングを楽しみながら、バックミュージックには、矢ヶ部さんのギター演奏が流れました。曲数もたくさん弾いてもらいましたが、スタジオジブリ作品の映画音楽が、子供たちだけではなく、私にも大変心地よく響き、雰囲気ぴったりでした。最近、ギター腕前も一段と上がったようです（ご本人曰く、弾く機会が増えた）。

また、武市さんもいつのまにかピアノの前に座っていて、矢ヶ部さんとのセッションが始まり、お二人は、あっという間に子供達に取り込まれてしまいました。ご本人たちは演奏に集中できなかったかも知れませんが、演奏だけでなくその微笑まじさが会場のみんを魅了しました。



写真一七 矢ヶ部さんのギター



写真一八 武市さんのピアノ

5. 獅子舞と合唱

ミニコンサートの後は、地元の皆様から獅子舞を披露してもらいました。この黒松獅子舞（御嶽流）の由来を、保存会会員の安藤好幸さんより教えて頂きましたが、江戸時代中期に黒松地区に伝わったということです。演目の最初の“起こし”の意味は「**眠れる獅子を起こし、神の安全を守り、案内の役目をさせる。神が浜出等の行事を行う時、必ず鳥居をくぐるので、柱台の石、柱天の笠木などに首を擦り付ける仕草で安全を確認し、神が安全に通れることを表現します**（頂いた資料より抜粋）」ということです。近年になり勇壮になったとのことでしたが、激しい動きには驚かされます。終盤には、舞台から降りて子供たちを追い掛け、会場を沸かせて頂きました。



写真一〇 黒松獅子舞



写真一〇 黒松獅子舞・その2

最後に、武市さんの伴奏で「上を向いて歩こう」と「今日の日はさようなら」をみんなで歌い、収穫祭を終えました。

6. 意見交換会

閉会后、今年度の残りの活動についての「柴北川を愛する会」と「共助研」とでの意見交換会を行いました。共助研からは、「“特産品ネット通販”の仕組みのイメージ（中川さんより）」と「タケノコ生産技術や竹林管理方法（波多野さんより）」について説明を行いました。

柴北川を愛する会からは、「サクラそばの刈り入れの日程」「竹チップづくりのデモの予定」等について説明して頂き、今後の活動予定を互いに確認しました。



写真一一 意見交換会



写真一二 意見交換会・その2

7. サクラそば畑を見てお別れ

帰り際に、もうすぐ刈り入れ時となる「サクラそば畑」へ案内して頂きました。花のピークは過ぎていましたが、まだピンク色が鮮やかな箇所も残されていました。このそばの実は、すべて来年の種まき用として収穫される予定となっています。



写真—13 サクラそば畑



写真—14 サクラそば畑・その2

8. さいごに

柴北川プロジェクトに参加すると、必ず日常とは違う「懐かしさ・暖かさ」を感じます。その理由をこれまでも何度も自問自答してきましたし（例えば、通信9号）、他の会員もこの柴北川プロジェクト通信に記載されています（例えば、通信13号）。

今回の通信を担当することになってから、この部分をもっと書いてみたいと思っていましたが、どうも奥も深いようで上手く表現できません。

少しだけ、この「懐かしさ・暖かさ」の気持ちに通じる句を、新聞記事で見付けましたので、ご紹介してこの号の終わりにしたいと思います。

—— 惜しみつつ 晩稲を刈る 秋日和 ——

（古野 隆雄、合鴨農法に関する西日本新聞の記事より）

（文責：木寺、 写真すべて：波木事務局長）